

令和3年度学校評価プラン

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1) 教職員研修を充実し、意識改革を図るとともに教育観・使命感の確立に努める。 (2) 地域の期待や時代の要請を視野に入れ、教育環境を整備し、特色ある学校づくりに努める。 (3) 教職員相互の協力体制を築き、校内組織が有機的に機能する学校運営を推進する。 (詳細レベル) ①教職員研修の充実 ②本校教育への理解と関心を高めるための積極的なPR ③教職員間の協力体制の強化 ④学校行事の公開 ⑤地域貢献、ボランティア活動の推進	① 職員研修会の実施回数 10回 ②-1 体験学習の参加者数 320名 (中止) 体験入部の参加者数 200名 (中止) ②-2 P T A総会書面決議 決議書回収率 98% (97.5%) P T A清掃活動を実施 年1回 ②-3 学校ホームページの更新回数 およびアクセス数 350回 (657回) 162,000アクセス(244,033アクセス) ②-4 マスコミなどへの学校活動の広報 15回 ③ 職員間協力度 100% ④-1 学校行事の新聞掲載回数 10回 (9回) ④-2 文化祭来場者 1,000名 (非公開) ⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名 (475名) ⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,500名 (1,000名)			(所見)
		活動計画	活動計画の実施状況		
		① 各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかける。 ②-2 P T A総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確実に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努める。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ 報告・連絡・相談を徹底するとともに課単位によるミーティングを行い、業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動、各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに、自主的に清掃活動を実施させ、物心両面からの美化活動に努める。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価プラン

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
		評価指標	活動計画	評価指標の達成度	総合評価		
2 学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を行う。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く。 (詳細レベル) ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実践的・体験的な学習の充実・発展	① 自習率 1.0%以下 ② 授業満足度 80%以上 ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 40名(31名) ③-2 技能奨励賞 50名(37名) ③-3 日商簿記検定2級合格 7名(1名) ③-4 ITパスポート試験合格 1名(3名) ④-1 図書館利用者数 3,000名 (2,720名) ④-2 一人あたりの年間読書冊数 4.5冊 (4.32冊) ④-3 一人あたりの年間貸出冊数 1.8冊 (1.8冊) ④-4 図書館通信の発行回数 10回(10回) ⑤-1 地域連携活動テーマ数 13テーマ (13テーマ) ⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品(5商品) ⑤-3 実践的授業の試行 5回(5回)	① 学校行事の精選を行い、落ち着いた学習環境を整え、授業時数の確保を行う。 ② 「学力向上」実現のため、生徒の実態にあった指導方法の工夫を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 団体貸し出しカードを作成し、「学級文庫」を各HRに設置し、本に気軽に親しめる環境を作る。運営は図書委員を中心に行う。 ④-2 各教科と連携し、図書館の利用を推進する。 ④-3 「ミニ・ビブリオバトル」「図書館祭」「おすすめの本の紹介」等を充実させ、広く啓発活動を行う。 ④-4 「図書館通信」を通して広報活動を行い、入館しやすい図書館作りに努める。 ⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施 ⑤-2 地域企業との連携による商品開発の企画及び実施 ⑤-3 ICTや効果的な教授法等を導入した主体的・能動的な学びの実施	評価指標の達成度 (所見)	総合評価		
		活動計画	活動計画の実施状況				

【備考】 評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

令和3年度学校評価プラン

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価			
2 学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を図る。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く (詳細レベル) ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実践的・体験的な学習の充実・発展	評価指標 【全教科共通】 ・ICTや効果的な教授法を導入して、生徒の主体的で深い学びを導く (国語)・課題提出率98%以上 ・漢検受検者延べ350人以上 (地歴)・課題提出率95%以上 ・広い視野に立って物事を考察できるための基礎的知識と学力の定着を図る (公民)・課題提出率98%以上 ・ICT活用により関心を高め、知識の定着を図る。 (数学)・課題提出率98% ・単元によっては積極的にICTを活用する。 (理科)・単元毎にICTの活用 ・定期考査得点率60%以上 (保健体育)・救急救命法や妊娠、出産に関する講演会の実施 ・生涯体育につながるような運動の基本技術の習得 (芸術)・演奏や作品の発表を2回以上行う。 ・発表では自己評価、相互評価を取り入れる (英語)・全商英検3級合格80%以上 ・ペア及びグループ活動を通して主体的に表現する機会を増やし、相互評価する。 (家庭)・課題提出率100% ・ICTや実験実習を積極的に取り入れ知識の定着を図る。	評価指標の達成度 評定 総合評価 (所見)			
		活動計画 【全教科共通】 ・生徒の実態に応じた授業法の工夫と教科内外での情報交換と協働 (国語)・課題、ノートの点検と評価 ・漢検の受検準備をサポート (地歴)・準備物の徹底を図り、机間指導や提出物の点検等を通して学習状況を把握し、個々への指導を充実させる。 (公民)・課題、ノートの点検と評価 ・現代社会の課題に興味・関心を持たせる。 (数学)・課題、ノートの点検と評価 ・基礎問題の反復と細やかな指導 (理科)・視聴覚教材等の計画的利用 ・生徒の実態把握と問題の精選 (保健体育)・救命法については欠席者にも後日指導を徹底 ・選択種目で自己の課題に応じた取組を行わせる (芸術)・個々の生徒の段階に応じた指導を行い、サポートする。 (英語)・電子黒板やタブレットを活用し、効率的に情報を伝える。 ・個々の活動への指導と支援 ・全商英検の受検を支援 (家庭)・課題の点検と評価 ・ICTを活用し、実験実習を5/10以上取り入れる。授業の学びが実生活に繋がる指導を行う。	活動計画の実施状況			

令和3年度学校評価プラン

自 己 評 価				学校関係者評価		次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価			
			評価指標の達成度	評定	総合評価	
3 人権教育の徹底	(全体レベル) (1) 人権尊重を基盤とする普遍的な視点をすべての学校教育活動に位置つけた人権教育を推進する。 (2) これまでの成果を踏まえ、具体的な人権課題に即した個別的・普遍的なアプローチによって人権尊重の理念を深めるとともに、課題解決に向けた実践的な意欲や態度を培う。 (3) 学校、家庭及び地域社会と連携を図り、生徒の自主的活動を支援する中で、人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。 (詳細レベル) ① 教職員の人権意識の高揚を図る研修の充実 ② 生徒の主体的な活動を促すホームルーム活動の創造 ③ 生徒の自主活動の活性化	評価指標 ① 教職員人権研修の実施回数 4回(3回)			(所見)	
		② 人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個人人権課題に関する人権学習の実施回数 4回(5回)				
		③-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 1回(0回) ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送や標語の作成 5回(3回)				
		活動計画 ① 全教職員の人権意識高揚に向けた研修会の実施 ② 教職員の人権感覚を高揚させるための人権関係の資料作成 ③-1 校外で行われる中高生による人権研修会への参加促進 ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動の実施	活動計画の実施状況			

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価プラン

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
4 生徒指導の徹底	(全体レベル) (1)全教職員の共通理解のもとに、家庭との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (2)基本的な生活習慣を確立させ、道徳・規範意識を高め、責任を重んじる態度の育成に努める。 (3)部活動を奨励し、連帯感や愛校心を培い、社会人として望ましい資質・態度を育成する。 (詳細レベル) ①商業高校生としての美しい振る舞いの育成 ②基本的な生活習慣の確立 ③規範意識の高揚 ④部活動を通じた心身の調和のとれた生徒の育成及びあらゆる機会でのリーダーシップを発揮できる生徒の育成	①-1 生徒指導理解率 教職員 100% 生徒 100% ①-2 身だしなみ達成率 100% ①-3 あいさつ実施率 100% ②-1 皆勤賞の取得率 50% 精皆勤賞の取得率 75% ②-2 遅刻率 1.0%以下 ③ 校則等の遵守意識率 100% ④-1 部活動加入率 95% ④-2 壮行会の開催 4回(中止) ④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動(12部活動) ④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(9部活動)			(所 見)
		活動計画 ①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる ①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。 ①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わされるように指導する。 ②-1 家庭と連携し基本的な生活習慣の育成を促すとともに、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることに對する意識を高めさせる。 ②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。 ③ 面談等で生徒の実態を把握し、学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。 ④-1 部活動加入の継続を図る。 ④-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。 ④-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。 ④-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。	活動計画の実施状況		

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価プラン

重点課題	自	己	評	価	学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
					学校関係者の意見	学校関係者の意見	
		評価指標と活動計画		評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
5 進路指導の充実	(全体レベル) (1) 自己の特性を理解させ、自らの在り方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。 (2) 望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた進路の実現を図る。 (3) 進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。 (詳細レベル) ① 進路指導のガイドライン設定と教職員への周知 ② 進路説明会の開催と進路相談の計画的な実施 ③ ICTを活用した進路情報の確実な伝達 ④ 個別指導の充実 ⑤ 個性・能力の伸長と適切な進路サポート ⑥ 求人獲得と職場開拓	① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回 ② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回 ③-1 進路資料室の利用クラス 23クラス ③-2 全学年新聞週課題 年間 12回 新聞日誌 年間115日 ④ 進路決定に対する満足度 96% ⑤ 朝の学習実施率 100%(100%) (1学年) 1学期62日 2学期75日 3学期44日 (2学年) 1学期69日 2学期79日 3学期40日 (3学年) 1学期55日 2学期62日 3学期8日 ⑥-1 訪問企業数 185社 会社見学 70社 生徒 120名 ⑥-2 就職内定率 100% (100%)			(所見)		
		① 各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施 ② 校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施 ③-1 利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達 ③-2 読解力・表現力向上のための新聞を使った活動の導入 ④ 進路実現に向けて生徒の意識づけをするガイダンスを実施 ⑤ 朝の学習の実施 (1学年) SHR前の10分間を用い、漢字等の小テストを自習する。(2学年) SHR前の10分間を用い、時期に応じた課題を自学自習する。(3学年) SHR前の10分間を用い、時事問題集や就職試験の心構え等の小テストを自学自習する。 ⑥-1 求人獲得とミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施 ⑥-2 進路指導における最重要課題に位置づけ、本校の教育活動の全体を通じて展開	活動計画の実施状況				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価プラン

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価			
6 情報化・国際化への対応	(全体レベル) (1) 施設・設備の充実を図り、情報活用能力と情報モラルの育成を図る。 (2) ICTの活用等により、教科指導の充実や校務の効率化を図り、教育の情報化を推進する。 (3) 自国の文化を正しく認識し、異文化との相互理解を深め、国際社会で活躍できる資質を養う。 (詳細レベル) ① ICT環境整備の推進と情報モラルの育成 ② ICTの活用による授業改善と校務の効率化 ③ 自国の文化及び異文化への理解	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	
		① クリアデスク実施率 90%(90%) セキュリティポリシー遵守率 100%(100%) ② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 50%(55%) パソコン教室の利用度 90%(90%) ③ 国際交流活動回数 10回(64回)				
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 情報セキュリティポリシーにのっとり、情報の漏洩防止を図る。 ①-2 校内情報セキュリティの強化に向けたシステムの再構成を企画する。 ①-3 クリアデスク推進日を設け、机上の整理、情報資産の取り扱い向上を図る。 ② 各教科の特性や生徒の実態を踏まえ、ICT機器を活用した授業実践を推進する。 ③ カンボジア・生徒の渡航 なし オンラインを通じての交流 ジョージア・生徒の渡航 なし オンラインを通じての交流				

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和3年度学校評価プラン

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
7 健康・安全・防災 環境・主権者教育 の推進	(全体レベル) (1)生涯にわたって心身共に健康であるための基礎的な身体作りや食習慣を身につける。(食育) (2) 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (3) 整理・清掃・整頓・清潔(4S)を徹底して環境美化に努め、奉仕する態度や公共心を養う。 (4) 学校版環境ISO認定校として実践を推進し、環境問題への関心を高める。 (5) 有権者として、自らの判断で適切に権利を行使できる政治的教養を身につける。 (詳細レベル) ①健康教育の充実 ②安全・防災意識の高揚と実践力の育成 ③校内美化に向けての実践力の育成 ④環境教育の充実 ⑤主権者教育の充実	①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回) ①-2 3年生を対象として卒業前に「地産地消の料理講習会」を実施する。 年1回(1回) ①-3 食に関する展示や食育通信の発行を通して、生徒への啓発を行う。 年2回(2回) ①-4 保健だよりの発行 12回(12回) ①-5 ホームルーム活動 年1回(1回) ①-6 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回(1回) ①-7 心肺蘇生法講習会 2回(1回)			(所見)
		② 防災啓発活動の実施 年2回(1回) ③ 清掃状況の点検と改善 年6回(6回)			
		④-1 ゴミ分別処理の点検常時指導(常時) ④-2 節電・節水の推進を図る。毎月の使用量を教室、廊下に掲示(常時)			
		⑤ 講演会や生徒による発表会を行い、主権者としての意識の醸成を図る。 年2回(3回)			
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。 ①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。 ①-3 PTA総会、文化祭の時に実施予定。 ①-4 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への啓発・掲示を行う) ①-5 生徒の健康課題を取り扱い、生活の改善を図る。 ①-6 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。 ①-7 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。 ② 防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。 ③ 環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。 ④-1 環境委員がゴミ分別状況調査を行う。 ④-2 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。 ⑤ ホームルーム活動や主権者教育に関する資料の配付や発表会、講演会等により、自らがより国家を構築する主権者であることに気づかせ意識を深化させる。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成